

# 笠岡沖を美しく豊かに 海ごみ回収、稚魚放流



笠岡市の海域でのアマモ場再生に向けて連携協定を結んだ5者の代表

## 県など5者、連携協定

県や笠岡市、笠岡地区漁業連絡協議会などは26日、同市の海域でアマモ場の再生活動を進めるための連携協定を結んだ。同様の協定は備前市日生町地区、瀬戸内市邑久町地区に続き県内3例目。

生活協同組合おやかまコープ(岡山市)と建設業の天野産業(笠岡市)の「美しく豊かな海づくり」の豊かな海づくり協力会、NPO法人里海づくり研究会(岡山市)を合わせた5者の代表6人が、県庁で協定書に署名した。89年に3診まで縮小漁業連絡協の井本龍雄会長は「団結し、美しく豊かな海の再生へチャレンジし続けよう」という意気込みを述べた。

協定は、アマモ場の再生のほか、海ごみ回収、稚魚放流などを協力して進める内容。漁業連絡協が活動計画をつくった上で、豊かな海づくり協力会とともにアマモ場の採取や植え付けなどを手掛ける。里海づくり研究会は技術面の指導に当たり、県と市は理解を深げるためのPRに努める。

県によると、笠岡沖のアマモ場面積は1989年に3診まで縮小したが、2015年度は39診まで持ち直しているという。

(小谷章浩)

# 「美しく豊かな海に」 県や笠岡市など連携協定



美しく豊かな海づくりに関する協定を締結した伊原木隆太知事(左から3人目)ら＝岡山市北区

笠岡市の海を美しく豊かな海にしようと、県や笠岡市などが26日、連携協定を締結した。ごみの回収や稚魚の放流、アマモ場の再生活動などを連携して行うことを定めた。

同市では、同市漁協と大島美の浜漁協でつくる「笠岡地区漁業連絡協議会」が主体となって、「アマモ場の再生活動に取り組みたい」という。アマモ場は「海のゆりかご」とも呼ばれ、魚やエビが生息して卵を産み付ける。県などはメバル稚魚の放流や海底のごみの回収などを行っている。

協定は関係機関が協働する

そのため、同協議会が活動計画の策定し、県や同市が県民らに活動への理解を求めると、それぞれの役割を定めている。

協定締結式には、同協議会の井本龍雄会長▽豊かな海づくり協力会幹事の平田昌三・おやかまコープ理事長▽小林嘉文・笠岡市長▽伊原木隆太知事らが出席。伊原木知事は「海が豊かになると、魚が増え、いずれ人も増えると思う。県としてもバックアップしていきたい」と話していた。

# 笠岡の海再生へ 官民5者が協定 環境保護活動など拡大

笠岡市で海の再生に取り組む民間3団体と同市、県は26日、県庁で「美しく豊かな海づくりに関する連携協



笠岡の海を守る協定を結んだ5団体の代表者

定」を結んだ。環境保護活動などに連携して取り組む。

同市内の2漁協でつくる笠岡地区漁業連絡協議会と、おやかまコープ(岡山市北区)と総合建設業天野産業(笠岡市)が幹事を務める豊かな海づくり協力会、研究者たちでつくるNPO法人里海づくり研究会(岡山市東区)の3団体。それ

それぞれ、アマモの種子をまいての再生活動や、稚魚の放流、海ごみの回収活動などに取り組んでいる。

協定により、協力し合い、裾野を広げていく。団体代表と小林嘉文市長、伊原木隆太知事が調印した。代表者たちは「地域の再生にもつながる」「住んでみたいと思われ場所にしたい」など期待した。

(持田謙一)





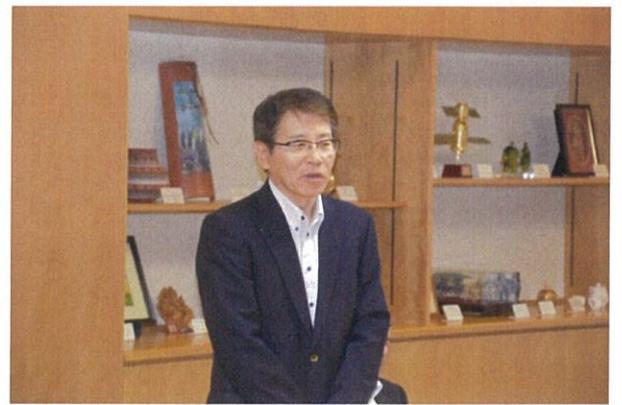
伊原木隆太・岡山県知事



小林嘉文・笠岡市長



井元瀧雄・笠岡市漁業連絡協議会会長



平田昌三・おかやまコープ理事長



天野和彦・天野産業(株)代表取締役



松田治・NPO 里海づくり研究会議理事長